

研究速報 食道アカラシアに対する新術式：Heller—勝見変法について

青木 洋三 勝見 正治 南部 文彦

**緒 言**：私達は術後の逆流性食道炎をも防止しえる食道アカラシアに対する新しい術式を工夫し、臨床的に試みた。本稿ではその手技を中心に述べる。

**手術手技**：上腹部正中切開により開腹する。他の開腹時と同様、腹腔内諸臓器を十分に検索した後、肝円索、肝鎌状間膜、肝左葉三角間膜とこれに続く冠状間膜を切離する。このようにしてから森岡のつり上げ式開腹鉤をかけ、肝左葉を右側に圧排すると、胃噴門部を中心とした十分な視野が得られる。胃大弯側において、胃大網動脈の左右分岐部あたりから食道胃噴門部に向い、大弯に沿って大網を切離し、胃脾間膜、胃横隔靭帯へと延ばす。これにより胃大弯側において網嚢が開放され、以後の操作中の脾損傷も予防できる。切離をさらに右側へ進め、食道横隔靭帯を横切し胃小弯側に至る。ここで迷走神経を損傷しないよう留意しつつ食道の後壁も十分に剝離しテープを通す。このテープを下方へ牽引し、拡張した食道を全周にわたり鋭的、鈍的に剝離し、縦隔より腹腔側に露出せしめる。ここで Sengstaken-Blakemore tube, あるいは Fr. 14 Gruntzig balloon catheter を経鼻的に挿入し、食道の胃入口部を中心にバルーンを拡張させ esophagomyotomy に備える。この myotomy は Heller-Zaaijer 変法<sup>1)</sup>に従って、食道前壁で Benson 鉗子を用いて8~10cm にわたり施行する。この際胃側へは斜走筋がわずかにみえるまで行い、斜走筋を温存して術後の逆流防止機構に期待する。食道粘膜が十分に膨隆するのを確かめてから、挿入した Sengstaken-Blakemore tube, あるいは Gruntzig balloon catheter を抜去し、改めて Fr. 36食道拡張ブジーを経口的に挿入し、先端が十分胃内に到達しているのを確認する。このブジーを胃小弯側に密着させ、ブジーの左側外縁に沿わせるようにして胃噴門側より幽門側に向い5cm の長さにならってベッツ鉗子をかける(図1)<sup>2)</sup>。2列の staple の間は切離せずそのままとし、この全長にわたり3-0 絹糸を用い7~8mm 間隔で partial (2/3 周) の Nissen's fundoplication を施行する(図1)。前後壁での第1針目は myotomy を施行した最下端の左右外膜筋層にかける。ブジーを抜去し、胃底部を2、

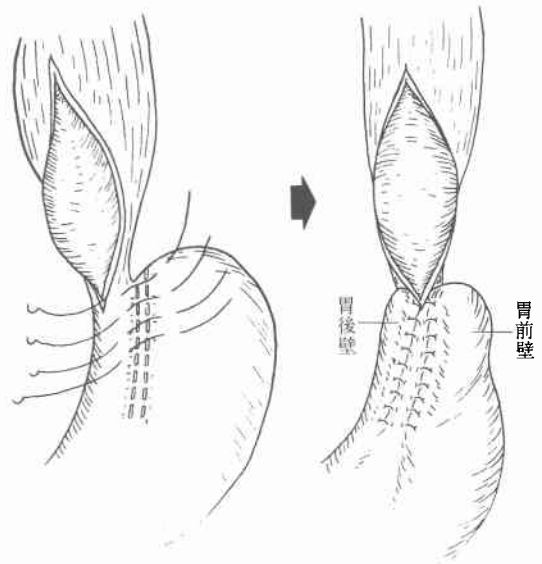


図1 新術式の概要

ベッツ鉗子をかけ(左)、その全長に2/3周の Nissen's fundoplication を行う(右)。(左図は胃前壁重層の途中を示し、後壁も同様に行う)

3針横隔膜に固定する。Myotomy 近傍と左横隔膜下にベンローズドレーンを挿入し、閉腹する。

**本術式のポイント**：Myotomy により通過障害を除き、胃斜走筋の温存、stapling による食道から幽門側に続く胃管の形成と His 角の形成、さらに partial の Nissen's fundoplication により、食道への逆流を防止する。Fundoplication を全周に行わず2/3周で留め、myotomy の効果をより十分に発揮せしめる。

**索引用語**：食道アカラシア

**文 献**：1) Ellis FR Jr, Kiser JC, Schlegel JF et al : Esophagomyotomy for esophageal achalasia : Experimental, clinical, and manometric aspects. Ann Surg 166 : 640-656, 1967 2) Demos NJ, Smith N, Williams D : A gastroplasty for short esophagus and reflux esophagitis : Experimental and clinical studies. Ann Surg 181 : 178-181, 1975

A NEW SURGICAL PROCEDURE FOR ESOPHAGEAL ACHALASIA : MODIFIED HELLER'S ESOPHAGOMYOTOMY WITH FUNDIC LONGITUDINAL STAPLING AND PARTIAL NISSEN'S FUNDOPPLICATION (KATSUMI) Yozo AOKI, Masaharu KATSUMI and Fumihiko NANBU Department of Gastroenterological Surgery, Wakayama Medical College

<1985年3月2日受理> 別刷請求先：青木洋三 〒640 和歌山市7番丁1番地 和歌山県立医科大学消化器外科